

2023年度 福祉学部
学校推薦型選抜・指定校推薦型選抜問題

国語基礎問題

2022年11月実施

出題科目	ページ	解答番号
国語基礎問題 (100点)	4～12	1～30

注意事項

- 1 選抜開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- 2 問題は4～12ページである。
- 3 選抜中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 選抜番号欄
必ず選抜番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
 - ② 氏名欄
氏名及びフリガナを記入しなさい。
- 5 必要事項欄及びマーク欄に正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあるので注意すること。
- 6 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、**35** と表示のある問いに対して⑤と解答する場合は、次の(例)のように解答番号35の解答欄の**(5)**にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
35	(1) (2) (3) (4) 5 (6) (7) (8) (9) (10)

- 7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。

国語基礎問題

(解答番号

1

～

30)

I 次の問いに答えなさい。

問一 次の a ～ e の下線部と同じ漢字を含むものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は 1 ～ 5。

a ドウサツ能力

1

- ① 吳越ドウシユウ。
- ② ドウクツ探検。
- ③ キドウに乗る。
- ④ ドウワ絵本。
- ⑤ 救命ドウイ。

b 商品のチンレッツ

2

- ① チンタイ契約。
- ② チンミヨウな格好。
- ③ 冷靜チンチャク。
- ④ 冒頭チンジュツ。
- ⑤ 火勢のチンアツ。

c キョウド料理

3

- ① キョウシユウにひたる。
- ② 自然のキョウイ。
- ③ キョウキンを開く。
- ④ 阿鼻キョウカン。
- ⑤ キョウゴ施設。

d ユベンは銀

4

- ① キユウに終わる。
- ② 銀行からのユウシ。
- ③ 深山ユウコク。
- ④ ユモウ果敢。
- ⑤ ユダイな景色。

e コウシヨの候

5

- ① コウイン矢のごとし。
- ② ヘンコウ報道。
- ③ 価格のコウシヨウ。
- ④ コウコツ文字。
- ⑤ 税のコウジョ。

問二 次のf、jの語句の読み方として正しいものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

解答番号は f | 6、g | 7、h | 8、i | 9、j | 10。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|-------|---|------|---|-------|---|------|---|-------|
| f | 苦渋 | ① | クシン | ② | クシ | ③ | クジ | ④ | クシブ | ⑤ | クジユウ |
| g | 排斥 | ① | ハイキン | ② | ハイセツ | ③ | ハイセキ | ④ | ハイソ | ⑤ | ハイソツ |
| h | 寸隙 | ① | スリリョウ | ② | スンカ | ③ | スンサ | ④ | スンゲキ | ⑤ | スンショウ |
| i | 逐次 | ① | チクジ | ② | カイジ | ③ | タクジ | ④ | ツイジ | ⑤ | センジ |
| j | 凄惨 | ① | ゴウサン | ② | セイサン | ③ | キョウサン | ④ | ヒサン | ⑤ | ムザン |

問三 次のk、oの意味が示す四字熟語を、後の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。ただし、同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は k | 11、l | 12、m | 13、n | 14、o | 15。

- | | | |
|---|------|-----------------------------|
| k | 【意味】 | でたらめのあること。 |
| l | 【意味】 | 賢く処世して自分の地位を守ること。 |
| m | 【意味】 | 自分の都合のよいように、考えたり事を進めたりすること。 |
| n | 【意味】 | ゆったりと落ち着いて、あわてないこと。 |
| o | 【意味】 | 許せないようなけしからぬこと。 |

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | 奇奇怪怪 | ② | 用意周到 | ③ | 従容不迫 | ④ | 荒唐無稽 | ⑤ | 唯我独尊 |
| ⑥ | 明鏡止水 | ⑦ | 心身一如 | ⑧ | 支離滅裂 | ⑨ | 我田引水 | ⑩ | 明哲保身 |

問四 次の **p**、**t** がそれぞれ示す意味の言葉となるよう「○」や「○○」に入る適当な言葉を、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマ

ークしなさい。解答番号は **p** | **16**、**q** | **17**、**r** | **18**、**s** | **19**、**t** | **20**。

p ○○を現す：【意味】隠しておいた本性が現れること。

- ① 尻尾
- ② 口先
- ③ 馬脚
- ④ 陰影
- ⑤ 正体

q ○○の火事：【意味】自分には関係なく、また被害が及ぶことのない事件や出来事。

- ① 沿岸
- ② 対岸
- ③ 川向
- ④ 川上
- ⑤ 川下

r 焦○の急：【意味】事態が差し迫っていて、一刻の猶予も許されないほどであること。

- ① 髪
- ② 燥
- ③ 眼
- ④ 眉
- ⑤ 心

s ○から棒：【意味】突然、物事を行うこと。

- ① 空
- ② 窓
- ③ 軒
- ④ 藪
- ⑤ 闇

t ○○に触れる：【意味】心の奥に秘められた、感動し共鳴する心情。

- ① 琴線
- ② 機微
- ③ 涙腺
- ④ 深淵
- ⑤ 勘気

II 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 近代社会の中心は希望とともに展開していた。我々は進歩し、発展していく社会のなかにいるという希望である。もちろん社会には絶えず問題があり、苦しみを味わう他ない人々も生まれていた。しかし、それでもなおわれらの社会は進歩のなかにあり、また進歩させられるのだと多くの人々は確信していた。

何がそのような確信を生み出したのであろうか。それはいまヨーロッパの世界が、経済、理念、システムのすべての面で、これからの世界を領導していくものをつくりだしているという **a** 感であった。たとえ問題はあっても資本主義とともに生まれた近代的な生産の仕組は、これまでにはなかったような経済の発展をもたらした。自由、平等、友愛というスローガンに集約された近代社会の理念は、未来への普遍的な理念のように思われた。市民社会や国民国家のシステムも、いまだ不十分なものではあっても、より高い完成に向けて前進していけるものと映っていた。問題をかかえながらも、航海の海路はみえていると人々は感じていた。

だがこの航海図には記載されていないものもあった。つまり、見失っていたものがあつたのである。そのひとつが自然だった。私たちが暮らす世界における自然の役割に人々が気付いていなかったというわけではない。マルサスがたとえ粗雑なかたちであれ、文明の発展はいずれ自然の有限性と衝突し、それは食料危機として現われると語ったとき、彼の『人口論』はベストセラーになっている。あるいは自然主義的なロマン派の詩人たちは、自然の美しさのなかに人間の精神を回帰させる必要性を感じていた。

だが近代史のなかにおいては、それは脇役でしかなかった。主役は進歩、発展する世界である。自然は無限に存在すると仮定することによって、無限の発展をめざした世界であつた。なぜこのような方向が主流にならなければならなかったのか。それは、資本主義が貨幣量の増加を目的とした経済であり、経済の総過程と個別経営体の行動との間に不調和が発生してしまいかねないシステムだったからである。この不調和を解消していくためには、たゆまぬ経済成長が必要だった。そして無限の経済成長を志向するとき、自然は無視されたパートナーの位置に置かれた。

もうひとつ、この航海図には載っていないものがある。それは世界をあるがままにとらえていこうとする思考、あるいは世界のさまざまな文化を率直に尊重していこうとする精神である。この精神の **b** が植民地主義を生み、欧米的思考のひろがり世界を進歩を促すという傲慢ごうまんを生んだ。あるいはその結果は非欧米世界の破壊であつた。欧米世界とそれに同調した日本などの発展をめざす行動によって、非欧米的世界は破壊されてしまったのである。

さらに、もうひとつこの航海図に記載されていないものがあつた。 **B** それは自然や人間の存在と「結び合い」との関係である。

この第三の記載もれば、近代の原理と真向から対立するがゆえに無視された、と言った方がよいのかもしれない。近代社会は、資本主義、市民社会、

国民国家が相互的に展開していくシステムとして形成されている。なぜそれらが相互性をもちうるのかといえ、資本主義も、市民社会も、国民国家も、個人を基調としたシステムとして形成されていたからである。

資本主義は「自由な労働力」の誕生とともに成立した。「自由な労働力」とは、生活のために自分の意志で、自分の労働力を労働力市場に投げだし、労働力の買手を探す個人のことである。何かに強制されてそうするわけではない。生きていけるのなら、自分の労働力を売らなくてもよい。あくまで、売るか売らないかは自由意志なのである。しかし、多くの人は生きていくためには売らなければいけない。そういう「自由な個人」の大量出現によって、必要労働力をつねに確保できるようになったこと、それが資本主義の成立には不可欠であった。そして、そのようなものだから、企業は購入した労働力をまるで消耗品のように、まるで部品のように扱うことができた。c 的なのは、今日の派遣社員やパート、契約社員たちである。彼らも「自由意志」でそこに勤めた個人である。だが企業にとつて彼らは、いつでも解雇でき、いつでも取り換えられる消耗品ではない。

そしてこのかたちをつくりだすためには、人間が共同体とともに暮らす結ばれた人間であつてはならなかった。自分の労働力の買手を探す「自由な労働力」でなければならなかった。

だからこそ近代市民社会が共同体的世界を解体し、「自由な個人」の社会としてつくられたことは、資本主義にとつても好都合であつた。さらに個人の社会をつくりだしてしまえば、その個人を支えるものは、とどのつまり収入であり貨幣である。精神的にはたとえどんなに嫌おうとも、現実の生活のなかでは人間は貨幣の虜とりこになつていく。貨幣が「神」の地位を築いていくのである。市民社会と資本主義は、こうして相互的に結び合う構造をつくりだした。

国民国家もまた同じだった。それはすべての人間を「平等な国民」としてバラバラにし、国家システムで統合していく仕組である。それは国民管理の方法でもあり、またバラバラにされているがゆえに国家システムによる保護を国民自身も必要とするようになった体制である。年金制度にいくら不備があつても、個人となつた国民はこの年金制度に頼らざるをえないように。

このようにみえていくと、資本主義、市民社会、国民国家は、人間が個人として生きるという共通の基盤の上に成立していたことがわかる。だからこそこの三つのシステムは相互的であり、親和性をもっていた。

近代世界の躍動力は、ここからつくられたのである。私たちは進歩し、発展する歴史のなかにいるというあの感情、明日は今日よりよくなるというあの希望が、である。

とすると近代世界の航海図のなかに、「結び合い」が記載されていなかったのも当然のことだ。私たちは単なる個人ではなく、共同体とともに、自然とともに、すなわち他者との結び合いのなかに生きているなどといつてしまったら、近代世界の基本的な構図がこわれてしまうだろう。近代の航海図は「自由な個人」の可能性や希望に満ちた未来を謳うたい上げる他なかった。

今日では、この近代の航海図に記載されていなかったものが、私たちの課題として現われてきた。**ア**の問題はもはや無視しえなくなった。

イを尊重しなければ、私たちは平和をえることもできなくなった。そして、**ウ**の限界がみえてきた。

ところが、それらこそがこれまでの社会の発展の原動力だったのである。自然は無限に存在するものと仮定したからこそ、経済の発展に邁進することができた。世界の均一化をすすめながら、効率のよい社会をつくってきた。個人の社会は資本主義の基盤を提供し、そしてこの体制のもとで私たちは、まじん気儘な「自由人」でいることができた。

そして、だから問題は深刻である。**X**つまり、私たちが未来をつかもうとすると、近代社会の原理や構造が今日の問題を生み出した原因として現われてきて、しかもこの仕組のなかで暮らし、「自由」を得てきたわれわれの存在が問われてしまう。だがそれを問わなければ、壊れていく社会のなかで**d**する自分をみいだすことになるだろう。何かを喪失したことを感じながら手にした自由や、何かに飲みこまれ、何かからはきだされていく自己をそのときみいだしながら。

つちやまたかし おび
(内山節『怯えの時代』)

問一 空欄 **a** く **d** に入る言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。ただし、同じものを繰り返し用いてはいけません。解答番号は **a** | **21**、**b** | **22**、**c** | **23**、**d** | **24**。

- ① 逆説 ② 解放 ③ 強制 ④ 使命 ⑤ 象徴 ⑥ 漂流 ⑦ 欠落 ⑧ 増大

問二 傍線部 **A** 「近代社会の中心は希望とともに展開していた」とあるが、ここで筆者が言おうとしているのはどうか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **25**。

- ① 近代社会が進歩し発展すれば、そうした社会のなかにいる人々が幸福になることは自明だということ。
② ヨーロッパ近代が作り出した経済、理念、システムなどは、きわめて独自ですぐれたものだったということ。
③ 近代社会のシステムが完成したことで、人々がそうした社会の進歩や発展を信じるようになったということ。
④ 自立した個人の自由意志によって作られる社会の豊かな可能性を、多くの人々が疑っていなかったということ。
⑤ 近代化にともなって個人と他者や自然との関係が深まり、それがますます社会の発展を促すと思われていたということ。

問三 傍線部B「それは自然や人間の存在と『結び合い』との関係である」とあるが、「自然や人間の存在と『結び合い』との関係」が近代社会の「航海

図に記載されていない」ことについて、筆者はどのように考えているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **26**。

① 近代社会のシステムが自然や他者と切り離された個人によって支えられるものである以上、近代社会の航海図に自然や他者との「結び合い」が記されていないことは致し方ない。

② 自然や他者との「結び合い」は近代の原理と真向から対立するものだが、そうした対立について誰もが無自覚だったせいで、「結び合い」は近代社会の航海図に記載されなかった。

③ 近代社会の航海図に載らないものがいくつもあったことは認めざるをえないが、そこに自然や他者との「結び合い」が記載されていないのは、論理的に考えればおかしなことである。

④ 航海図とは来るべき社会の姿を描いたものであり、自然や他者との関係が将来どうなるか予測できない以上、自然や他者との「結び合い」のことを近代社会の航海図に記すことは難しい。

⑤ 自然や他者との「結び合い」は近代の原理と真向から対立するものだが、だからといって近代社会の航海図がそうしたことを記載しないのなら、そうした航海図など無意味なものだといえる。

問四 空欄 **ア** **ウ** に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **27**。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|---------------|---|---------------|
| ① | ア | 進歩と発展 | イ | 世界のさまざまな風土や文化 | ウ | 人と人との共生を強いる社会 |
| ② | ア | 進歩と発展 | イ | 近代社会を生み出した思想 | ウ | 人と人との共生を強いる社会 |
| ③ | ア | 進歩と発展 | イ | 近代社会を生み出した思想 | ウ | 個人として生きる社会 |
| ④ | ア | 自然 | イ | 近代社会を生み出した思想 | ウ | 個人として生きる社会 |
| ⑤ | ア | 自然 | イ | 世界のさまざまな風土や文化 | ウ | 人と人との共生を強いる社会 |
| ⑥ | ア | 自然 | イ | 世界のさまざまな風土や文化 | ウ | 個人として生きる社会 |

問五 傍線部C「自然は無限に存在するものと仮定したからこそ、経済の発展に邁進することができた」とあるが、ここでの「自然」はどのようなものと

と見なされていたか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **28**。

- ① 近代社会が経済的な発展を目指していくなかで、そうした発展を阻害する夾雑物ではないもの。
- ② 近代的な「自由人」の同伴者のような存在であり、その精神にかりそめではあるが安らぎをもたらしてくれもの。
- ③ 限りなく進歩し発展する近代社会に貢献するものではあるが、そうした社会のなかで主役にはなりえないもの。
- ④ ともすれば孤立しがちな近代人が「結び合い」を求めるとき、人と人との媒介として作用するもの。
- ⑤ 無限に存在するかに見えて実際には有限な存在であり、そうした両面性を見せることで人間をほんろう翻弄するもの。

問六 空欄 **X** に入る文として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **29**。

- ① 望ましい未来をたぐり寄せるには、私たちは気儘な「自由人」でありつづけるしかない。
- ② 享受してきた「自由」が近代社会の原理と無縁なものだったことを、私たちは思い知らされた。
- ③ 私たちに「発展」と「自由」を与えてきた原理が、私たちの未来を閉じさせている。
- ④ 「自由」も「発展」も手放さなければ生きていけないことを、私たちの誰もが実感している。
- ⑤ 近代人である私たちにとって、「自由」とはつねに手の届かない憧れでしかなかった。

問七 筆者の考えに合致するものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。解答番号は **30**。

① 近代は私たちに多くの利益をもたらす一方で、解決しがたい問題を山積させたが、こうした状況から脱却するために残された道は、前近代的な世界への回帰しかない。

② 国民国家が「平等な国民」の集合であることと、そうした国民が貨幣に支配されてしまうこととは矛盾しており、この矛盾にこそ近代社会の問題点が表れている。

③ 文明の発展と自然の有限性との衝突という問題を論じる思想が粗雑なものでしかなかったという事実は、近代の人々が自然の役割に気付いていなかったことを物語っている。

④ 近代的な資本主義システムのなかでは労働者は「自由な個人」となりうるが、そのことは、企業にとって彼らが交換可能な存在にすぎないというところでもある。

⑤ 自由や平等といった言葉に象徴される近代社会の理念は普遍性をもっていたが、その普遍性に気付かなかったところに、近代社会を生き延びてきた私たちの不幸がある。

国語（マークシート式・60分・100点）

大問	小問	細分	正解	配点	大問	小問	細分	正解	配点
I	問一	1	②	2点	I	問四	16	③	3点
		2	④	2点			17	②	3点
		3	①	2点			18	④	3点
		4	⑤	2点			19	④	3点
		5	②	2点			20	①	3点
	問二	6	⑤	2点	II	問一	21	②	3点
		7	③	2点			22	⑦	3点
		8	④	2点			23	⑤	3点
		9	①	2点			24	⑥	3点
		10	②	2点		問二	25	④	6点
	問三	11	④	3点		問三	26	①	6点
		12	⑩	3点		問四	27	⑥	7点
		13	⑨	3点		問五	28	③	6点
		14	③	3点		問六	29	③	6点
		15	①	3点		問七	30	④	7点